



2016.5.24.TUE

白馬村キックオフ

白馬アイデアキャラバン便り

H A K U B A I D E A C A R A V A N L E T T E R



白馬アイデアキャラバンについて

白馬村キックオフワークショップ

- 【日時】2016.5.24.(火)
- 【場所】白馬村農業体験実習館
- 【スケジュール】
 - 白馬村副村長よりご挨拶
 - 白馬村総合計画策定について
 - 総合計画基本構想の内容について
 - 【講演】多様な人たちと作り上げるまちづくりについて
 - 【ワーク】村民ができることと村外の人を求めること
 - 閉会のご挨拶

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度は「白馬アイデアキャンプ」と題し、将来の村づくりにかわる観光や農業や教育など分野について意見交換をしました。みなさんより提案されたアイデアをもとに、「白馬村アイデアキャラバン」では、アイデアを実現する住民アクションを考えていきます。

白馬村副村長より



今回の総合計画では、村民に主眼をおき計画策定を進めています。お集まりいただいたみなさまは、地域の中で様々な取組みをされているかと思います。考えていることやできることが同じ人もいれば違う人もいます。それぞれの立場をもって意見を出しあい、より実現性の高いものを検討できればと思います。

策定状況について

総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想(2015年3月議会承認済み)」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。今年度はアイデアキャラバン等を通じて、基本計画を検討します。7月には東京にて、白馬ファンを集めたワークショップを、8月には白馬村にて村民と都市部の人と一緒に意見交換ができる場を設ける予定です。

7/12
東京キャラバン
8/6-7(予定)
白馬キャラバン
2016年9月頃
総合計画策定

基本構想について

昨年度実施したヒアリングやアイデアキャンプを通じて、4つの柱(①産業②自然③ひと④暮らし)が見えてきました。そして、その中でも大事なキーワードとして「多様性」と「学び」があります。観光地として多様な人を受け入れる自然環境がある中で、伝統的な暮らしが残る地域でもあります。観光地として成長し、社会変化



の影響を受けやすい白馬村だからこそ、将来の村のあり方を考えるにあたり、受け入れた多様な人たちが、互いに学び合えるまちにすることを基本構想として掲げました。

【基本構想】白馬村の基本理念

白馬の豊かさとは何か-多様であることから交流し学びあい成長する村-

白馬村には、世界中の人を惹きつける多様な価値を持つ自然環境があります。その土地の暮らしに根付いた多様な歴史や文化も各地区に残っています。そして、移住者や来訪者も含めた白馬を愛する多様な立場の人たちがいます。社会変化の影響を受けやすく、これまでも多くの変化に対応してきた白馬村だからこそ、村内外からの「多様性」から「学びあう」ことを意識し、様々な分野で「白馬の豊かさ」を発見しながら成長していく必要があります。これからの10年間、白馬に集うみなさんが「白馬の豊かさとは何か」を問いつづけることによって、激しい社会変化にもお互いに知恵を出し合い、手を携えながら乗り越える、そして、一人ひとりが「豊かさ」を感じながら成長することができる白馬村を目指していきます。

講演

人口減少時代を迎えるにあたり、定住人口増ばかりを考えていると挫折が待っているかもしれません。地域づくりを生み出し、そこに関わる「活動人口」を増やすことが重要なテーマになってきます。将来、定住人口は減っても活動人口は増えているまちであれば、何か新しいことができたり、住みよい暮らしが待っている期待が生まれます。そこで弊社が関わる2つの事例を紹介します。



大山町未来づくり10年プラン

住民を主体とした総合計画策定の事例です。計画のテーマは「楽しさ自給率の高いまち」。お金を払って誰かに楽しませて貰っているのでは自給しているとはいえません。町外で遊んでいれば地域経済にも繋がりません。食料自給率やエネルギー自給率も大事ですが、自分の人生は自分の身の回りにあるもので楽しむことが活動人口を増やすことになるという計画と活動になります。



富岡市世界遺産まちづくり

富岡製糸向上を世界遺産にするために、市民の機運を高め地域活動へとつなげた事例です。世界遺産になることでメリットもありますが、人が押し寄せるデメリットも考えられます。そこで例えば300万人が一斉に来るのではなく、長い時間をかけて300万人に来てもらい、さらに来てもらった人が地元の人と友だちになり、何度でも来てもらえる関係性を築けるような市民活動を目指しました。

アイデアキャラバンであがった 自分にできることと必要な人やスキル

基本構想4つの柱である①産業②自然③ひと④暮らしについて、現状の課題に対して、村民それぞれができることと、これからの計画や活動を実現していくうえで求める人やスキルについての意見交換をしました。「自然」では、里山や休耕地を有効活用できる人、またそれらの人材を育成できる人がいることが分かりました。「産業」では、インバウンドを受け入れるために多言語による情報発信ができる人や、特産品のブランディングができる人の存在があげられました。「ひと」では、スポーツの指導ができることや、スポーツを楽しんだ後に文化や芸術を楽しめる仕組みがあるとい

いといったことが話されました。「暮らし」では、観光に関わるテント等の道具や交流スペースを貸すことができる人材がいることが分かりました。また、高齢化に対応する福祉スキルを持つ人が必要なことがあがりました。ワークを通じて、自分ができることが沢山あげられたということは、白馬村にはそれだけ優秀な人材が揃っているとも見えます。自分たちができていることが明確に揃っているからこそ、これから白馬に関わろうとしている村外の人でも入りやすい環境があるといえます。以下はテーマごとにあげられた意見の抜粋です。

抜粋意見の見方

左 2015年度アイデアキャンプから見た課題 右 今回のアイデアキャラバンで提案されたこと

自然について

自分にできること

- 里山の維持 マウンテンバイクやウォークランに使えるトレイルの整備
- 休耕地の有効活用 グループでの米作り
- 中心部の景観改善 景観デザインが多少できる
- 除雪体制の維持 除雪機械の運転ができる
- その他 白馬の自然を守る人材の育成

実現するために必要な人やスキル

- 休耕地の有効活用 エコロジーなイベントを催せる人
- 中心部の景観改善 補助金を持ってこれる人



産業について

自分にできること

- 雇用先の確保 企業に雇用関係助成金の提案ができる
- 後継者の確保 そば打ちの若い後継者を探している職人の紹介と場所の提供
- 観光産業の推進 高校生がプロデュースして企画運営をする
- 外国人への情報発信 インターナショナル人材を活かしてキャンプができる
- 観光生産物のブランド化 農産物のブランド化への支援

実現するために必要な人やスキル

- 観光産業の推進 「山」にもっと深く関われる観光資源づくり
- 観光産業の推進 着付け・マッサージなどをやってくれる人
- 観光生産物のブランド化 インタビューや体験を受け入れてくださる方



ひとについて

自分にできること

- 保育環境の充実 子ども達をあずかれる
- 教育活動の推進 絵本がたくさんあるので子どもたちの図書館ができる
- 文化芸術活動の啓発 文化財の情報発信
- スポーツ施設の有効活用 自転車ルートが発信
- スポーツ指導者の確保 スポーツ大会・マラソン大会への宣伝活動ができる

実現するために必要な人やスキル

- 教育活動の推進 古民家や民家を安く貸してくれる人
- スポーツ指導者の確保 シニアスキーヤーの指導システム
- スポーツ指導者の確保 シニアフィットネス出張指導



暮らしについて

自分にできること

- 交通の確保 大型自動車を運転できる
- 医療体制の拡充 ボランティア電話通訳
- 介護人材の確保 高齢者福祉の勉強会
- 移住者向けの情報発信 不動産情報を発信できる
- 住民交流の促進 地下室をバンドの練習に貸せる

実現するために必要な人やスキル

- 交通の確保 全スキー場を結ぶ交通手段が欲しい
- 介護人材の確保 介護施設へのレクリエーションセラピー
- 住民交流の促進 若い人が意見を言える場といえる人



実施・運営 (株) studio-L [WEB](http://www.studio-l.org/) www.studio-l.org/

問合わせ先 白馬村役場総務課企画係 [E-mail](mailto:keikaku@vill.hakuba.lg.jp) keikaku@vill.hakuba.lg.jp
TEL 0261-72-5000 FAX 0261-72-7001



studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。



2016.7.12.TU

東京キャラバン

白馬アイデアキャラバン便り

H A K U B A I D E A C A R A V A N L E T T E R



東京アイデアキャラバンについて

東京アイデアキャラバン

- 【日時】2016.7.12.(火)
- 【場所】Yahoo!Japan社員食堂BASE6
- 【スケジュール】
 - 白馬村長よりご挨拶
 - 総合計画の策定状況について
 - 鼎談「これからのむらづくり」
 - 意見交換「豊かな生活とは」
 - 発表・講評
 - 今後の流れについて

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度から村内にて、将来の村づくりについて意見交換をしてきました。東京キャラバンでは、白馬出身者や白馬ファンを中心に、都市部と白馬村を比べた豊かな生活について意見交換を行ないました。

白馬村長より



白馬で生まれ育った人や白馬が好きな人に沢山お集まりいただき嬉しく思います。近年では、長野オリンピックやインバウンドの影響もあり国内外から注目される「世界の白馬」と呼ばれるようになりました。本日は、村外からの目線として忌憚のないご意見をいただければと思います。

策定状況について

総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想(2015年3月議会承認済み)」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。基本構想のテーマを「白馬の豊かさとは何か-多様であることから交流し学びあい成長する村-」としました。四季折々の自然の美しさ、青鬼集落の伝統保存地区、観光地としての発展、最近では国際観光科もでき、多様な環境があります。これからの白馬の豊かさを問い続け、多様性を活かしながらも、観光産業による変化の激しい環境をみんなで考えていくという想いが込められています。

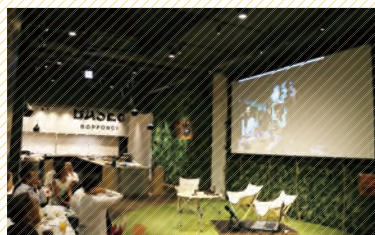
7/12
| 東京キャラバン
8/6-7
| 白馬キャラバン
2016年9月頃
総合計画策定



ポイント

東京と白馬村をウェブカメラでつなぎました！

白馬キャラバンでの様子が共有され「住民ひとりひとりで多様な考え方を持っていて、これからはみんなで協力しあって白馬村を盛り上げたい」といった意気込みが話されました。



鼎談



写真左から山崎氏・下川氏・宮坂氏

「これからのむらづくり」をテーマに、白馬村長の下川氏、白馬村と連携協定を締結したYahoo株式会社代表取締役社長の宮坂氏、白馬村の総合計画策定支援を行っているstudio-L株式会社代表取締役社長の山崎氏による鼎談を開催しました。

—白馬の魅力や豊かさとは？



さっきネット越しに繋いだ白馬のみんなはおしゃれでニューヨークと繋いでいるといってもおかしくありませんでした。村だからどうというのはなくて、東京も白馬も同じような環境がある時代だからこそ、これからどんな可能性があるのかを話してみたいと思います。



白馬はいま、国内外から注目をされ、多くの人に来ていただいています。これは人の豊かさのひとつと言えます。白馬は、観光地であるからこそ、様々なスキルを持った人材と共に築いていくことが大事です。一方で、グリーンシーズンの集客の課題があります。日本広しといえど高山植物が350種類もあるのは白馬ぐらいです。数多くの財産を活かし、素晴らしい白馬になっていくにはみなさんのお力が必要です。



白馬の人たちが外から「いいね！」といわれていることを自覚し、そこを伸ばすことで、外からの共感を得られ、村にある資源をきっちりを使いこなせていくんだと思います。村長から山岳景観の美しさ、そして多様な高山植物の存在や冬のスキーなどの話を伺いました。いまはそれを目指して世界中から人が来て、そういった多様な人たちと交流し学べるのが白馬の魅力ですよ。



僕はまちづくりの専門家ではないので企業の経営者という立場から話します。ビジネスではよくライバルとの差別化を考えますが、一方で差異化も大事です。例えば、あるスキー場にリフトが6本あればこっちは7本つくる、これは差別化です。差別化はきりがありません。差異化は真似をするのではなく独自のことを磨きまくることです。白馬には、絶対に真似できない山岳景観、人と山の距離感、生物多様性、気候があります。この4つを崩さない取組みを進めるのが大事になるはず。

—白馬高校国際観光科のねらいとは？



白馬高校に新しく国際観光科ができましたが、あれは高校生の時から自分にしかできないことを学ぶといったねらいがあるのですか？



国際観光科ができるまで、2年連続で定数を割る危機に陥っていました。オリンピック選手を数多く輩出した白馬高校がなくなることとは大変だということで、全国から生徒を募集し、英語と観光を学べる科を設立しました。大学は村外へ出て、卒業後は白馬に帰ってきて働いてもらえれば地域の活性化になると考えています。



3年間全国の人たちと学び合って、白馬の唯一無二な差異化を図れるようなネタをみつけて、大学は外で学んで、帰ってくると事業を起こせる、そんなレベルの高い取組みができそうですね。

—Yahooの地域での取組みとは？



Yahooは様々な地域で取組みをされ、さらにそれを加速させると聞いたのですが、具体的にはどんなことをされているのですか？



白馬をはじめ、被災地の復興支援などを行っています。eコマースのクライアントが100万人いるとすればその内90%が地方になります。グローバルビジネスと小さなローカルビジネスがあり、ローカルの要素が強いと、海外の影響を受けにくい強みがあります。白馬村はグローバルな要素を持ちながらもローカルの要素を大事にしてほしい。



白馬村はすでにグローバルな要素とローカルな要素を持っていますよね。ヨーロッパやアメリカで何かが起きようとローカルの部分はそんなに影響を受けませんね。Yahooがやっているようにグローバルとローカルな要素をどう融合させるかが大事なんでしょうね。

—もっとこうしたらよいと思うこと



たまには射程距離を100年にするようなことをやってもよいのではないかと。企業でやるような3年や5年計画というのはどうしても当事者意識がでてしまうが、30年も経てばほとんどが辞めていますよね。最近のビジネスは変化が激しく、白馬村も100年後に観光業がうまくいっているかは分かりません。もちろん、観光業はいまはやるべき事業だし、村は永遠に続かないといけないものだからこそ、孫やひ孫の世代がどんなイメージの村だとよいかを考える必要があります。



総合計画は10年の計画だが、一度100年後の観光の形態などバックキャストिंगを考えてから、手前に引いてくるということを、この10年の計画に組み込めれば視点が広がるかもしれませんね。



未来の予測は、短期ほど難しく、長期ほど簡単です。来年の出生率は分かりませんが、100年後に人口が減少していることはほぼ確定していますよね。どうしてもいろんな情報が入ってきてきりがありませんが、まずは何をやるべきなのかを考えないといけません。山岳景観を改善するなら白馬にしかないものを見定めて、よく考えてやっていく必要があるのではないのでしょうか。



冒頭で宮坂さんがおっしゃったように、差別化しようとしてリフトを5本6本としていくと山岳景観が崩れ何をしていたのかとなりかねませんね。白馬住民はもちろん、白馬を応援する方も、未来を見据えて、白馬の魅力を長いスパンをかけて考えていかなければいけませんね。

ワーク①



自己紹介を交えながら、ワーク①では「豊かな生活」について、ワーク②では東京ではできないが「白馬村でできる豊かな生活」についての意見交換を行ないました。

ワークであがった主なキーワード

ワークであがった意見を、「基本目標の4つの軸」と、鼎談であげられた「ローカル・グローバル」という視点から整理しました。

	ローカル	グローバル
産業	自然と情報社会／やりたいことができる／通年できる仕事をつくる／観光業と農業／サテライトオフィス	白馬でも最先端の先進的な仕事はできる／外からの人もお店を出しやすい／人材豊富
自然	自然をコンパクトに体験できる／都会と自然のバランスがある／ストレス解消／季節感がある	世界にここだけしかない自然がある／パウダースノー／生きる体験ができる
ひと	誰かに必要とされる／受け入れる心を育てる／子育てにベストな環境／みんな親戚みたいな受容性	外国人など違うことを知れるのが楽しい／交際国流の場／コアなファンが存在する／インターナショナルスクール
暮らし	不便こそ豊か／何もないけど心が満たされる／人間らしい生活／デュアルライフ／時間に追われない生活	白馬に住むと海外が身近／選択肢が多い／白馬で留学／外国人を受け入れる気質が比較的高い

発表（一部の発表者を抜粋して掲載）



観光客の増加は、村の魅力を伝えているだけで地力の向上にはなっていません。住む人が増え、エネルギーに暮らせているかが大事です。また、高校生は学校という限られたコミュニティにいるため、外国人との交流の機会はありません。村民が気軽に交流できればと思います。



豊かな生活＝ストレスフリーという言葉に集約されました。東京と比較すると不便なことは多々あるが、山の景観がそれをカバーするほど素晴らしいです。平日は東京で稼ぎ、週末は白馬でストレスを解消できるような、ダブルライフの場が求められていることが分かりました。



白馬の豊かさを盛り上げる株式会社白馬があればよいのではといったことがあげられました。白馬もディズニーランドのようにいけば楽しいと思ってもらうには、住んでいて不便なことは村の中だけに留めて、観光に来てくれるお客さんにはみんなが口を揃えて「白馬はいいよ」といえばさらに盛り上がるのではないかと思います。

講評



白馬は、豊かさを量的に増やさなくても享受できるポジションにすることが面白いですね。日本のGDPは中国に負けているが、ひとりあたりの豊かさは圧倒的に勝っています。村全体の人口総量よりも、ひとりあたりがどうなのかが重要です。インバウンドが加速し、人が5倍に増えたら村はどうなるのかといったリスクも村だからこそ潜んでいます。



かつては、冬に働けば1年中遊んで暮らせる時代もありました。産業を活性化するには沢山の人に来てもらう必要もありますが、白馬に来てよかった、そして都会へ帰って気持ちよく仕事をしてもらえながこれからのキーポイントになることを感じました。



次の時代に向けてビジョンを描く必要があります。多様な働き方ができる時代だからこそ、描いたビジョンの中でどんな働き方や暮らし方ができるのかを考えないといけません。一方で1945年、農村人口が8割、都市人口が2割だったのがこの70年で逆転しました。いま都市にいる6割は地方にいた人の子孫であり、この親たちは地方のコミュニティの中で育ってきました。その子孫たちは、都市の生活の中で親の教育と社会とのずれを感じているはずです。田園回帰といわれるいま、このチャンスを逃さないようにすることが白馬に求められることなのではないのでしょうか。



白馬の食材をつかったメニューを楽しみました

おやき、紫米、村男Ⅲ世バーガー、はくばの豚、ほおずきジュース、ブルーベリージュースを食べながら、鼎談やワークショップをしました。おいしいメニューがあることで会話がはずみました。



次回「白馬アイデアキャラバン」のご案内

2日間をかけて宿泊形式で、村民や村外の白馬ファンが集まり、今後白馬でやってみたいと思う活動を考えます。

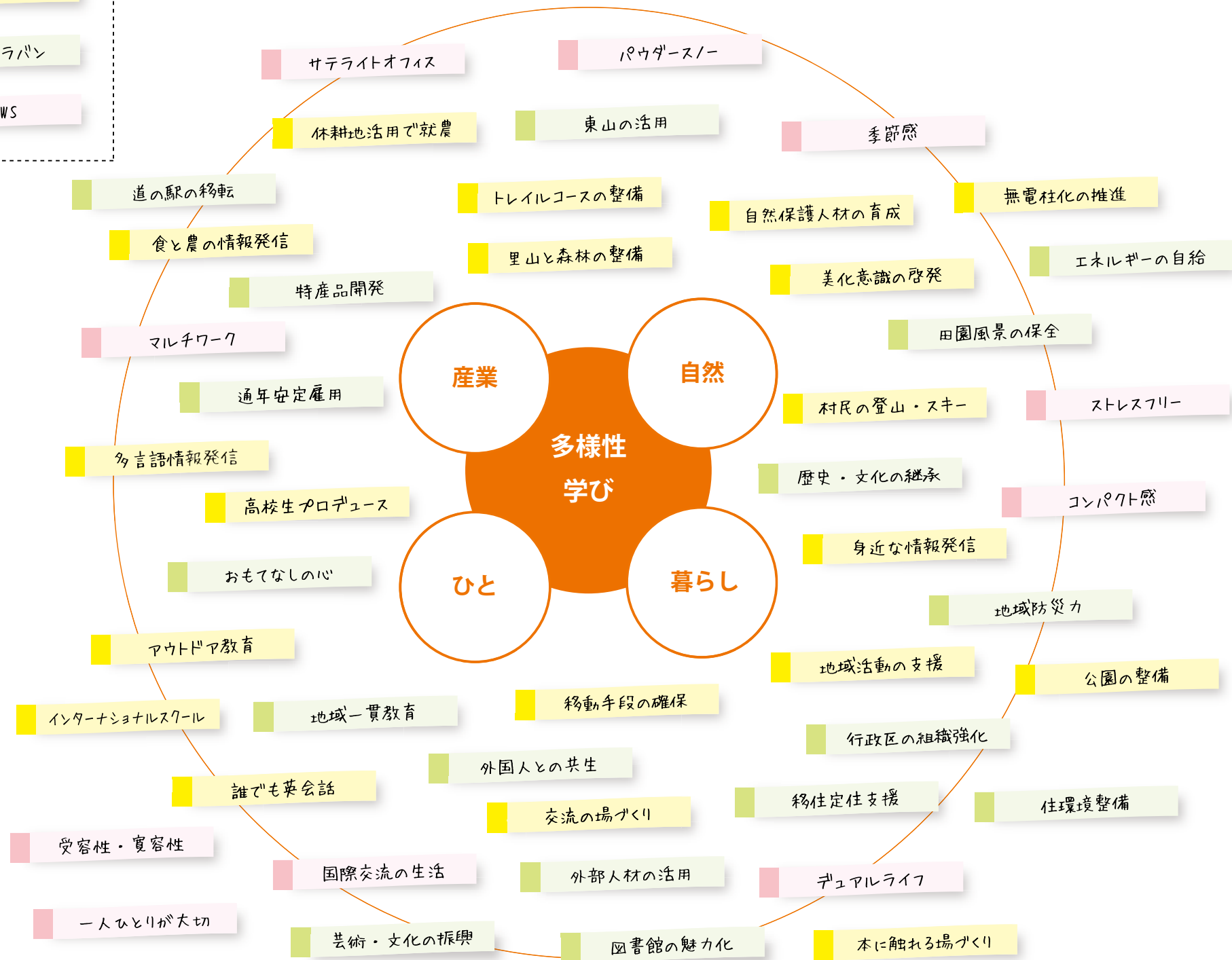
【日時】◎8月6日（土）13時～18時◎8月7日（日）9時～15時【会場】白馬村保健福祉ふれあいセンター【申込方法】申込フォーム (<https://goo.gl/bYadpt>) または氏名（ふりがな）、住所、電話番号を keikaku@vill.hakuba.lg.jp までお送りください。

詳しくは、白馬村役場HP (<http://www.vill.hakuba.lg.jp/>) をご覧ください。

キックオフWS

エリアキャラバン

東京WS



暮らし 安心してみんなが 暮らせる村	多様性を尊重し、住民が主体的に共生・協働する村づくり	住民参画と協働	23
		開かれた行政運営	24
		多様な人々の交流・共生	24
	安心・安全の生活を支える村づくり	防災・減災の強化	25
		日常の住みよさの確保	27
	支え合う福祉と健康の村づくり	子育て支援	29
		障がい者支援	32
		高齢者福祉	33
		健康づくりと地域医療の充実	35
	自立的・効率的で健全な行財政の村づくり	情報通信技術の活用	36
		行財政改革の推進	37
産業 新しい仕事をつくりだす村	「世界水準」を意識した観光の村づくり	競争力と持続可能性を高める観光地経営	39
	農地と森を守り地産を活かす村づくり	優良農地の保全	41
		農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進	42
		森林の整備と活用	44
	商工業の振興により雇用を生みだす村づくり	商工振興・創業支援	45
	民間活力を活かす村づくり	産官学金労言連携	46

地域活動の支援	行政区の組織強化
移住定住支援	外国人との共生
多言語情報発信	外部人材の活用
地域防災力	本に触れる場づくり
おもてなしの心	住環境整備
移動手段の確保	公園の整備
交流の場づくり	身近な情報発信
デュアルライフ	受容性・寛容性
ストレスフリー	コンパクト感
パウダースノー	季節感
トレイルコースの整備	東山の活用
里山と森林の整備	休耕地活用で就農
特産品開発	食と農の情報発信
通年安定雇用	道の駅の移転
サテライトオフィス	マルチワーク

ひと 一人ひとりが成長 し活躍できる村	学びあい育てあう村づくり	次代を担う子どもたちの学習 支援	47
		自己実現を目指す生涯学習 と青少年育成	48
	生涯にわたりスポーツに親しむ村 づくり	スポーツによる健康づくりと活 力の創造	50
	一人ひとりに活躍の場がある村 づくり	人のつながりによる活力の創 出	52
		男女共同参画社会の推進	53
自然 魅力ある自然を 守る村	かけがえのない山岳自然環境を 守る村づくり	天恵の自然との共生	55
		自然エネルギーの利活用	55
	自然との生き方を受け継ぐ村づく り	守るべきふるさとの歴史と文化 の継承	56
	美しい景観を守り育む村づくり	自然環境に調和したまちづく りの推進	57
	きれいな水と空気に囲まれる村 づくり	ごみ処理広域化への対応と ごみ減量化	58
		きれいで安心・安全な水環境	59

地域一貫教育

高校生プロデュース

図書館の魅力化

村民の登山・スキー

歴史・文化の継承

美化意識の啓発

無電柱化の推進

田園風景の保全

誰でも英会話

インターナショナルスクール

芸術・文化の振興

一人ひとりが大切

アウトドア教育

エネルギーの自給

自然保護人材の育成